

下水道へ関心高めて

日立で セミナー 業務紹介や処理場見学

下水道の魅力を学生に発信する「水ビジネスセミナー2016」(GKP下水道を未来につなげる会主催)が3日、日立市内の茨城大学工学部や同市池の川処理場などで開かれた。下水道の役割や水ビジネスの可能性の解説、施設見学などを通して学生に下水道への関心を持ってもらい、進路の選択肢に加えてもらうことが狙い。学生たちは関係者との交流も行い、水業界について理解を深めた。



国や県、民間企業などが学生に下水道の魅力などを伝えた＝日立市中成沢町の茨城大学工学部

GKP(下水道広報プラットフォーム)は国や自治体、民間企業、NPO法人などで下水道に関わる人たちが交流し、情報提供や広報活動を通じて下水道の真の価値を伝える活動を実施。GKPの中の「下水道を未来につなげる会(未来会)」は2014年に発足し、学生を対象に未来の下水道パースンの発掘を行っている若手チーム。全国の高校や大学でセミナーなどを開いている。

今回のセミナーには同大学の学生や院生、群馬や福島県の高等専門学校(高専)生約30人が参加。まず池の川処理場を見学。処置工程や汚泥から出るガスを利用した発電などを見て回った。

大学内では未来会の岩渕光生さんが下水道の役割や世界の水ビジネス市場、魅力発信の取り組みなどを紹介。「多様な貢献分野があり、巨大な市場があることを知ってほしい。活躍の場は世界に広がっている」と語り掛けた。また国や茨城県、企業などがそれぞれの役割や業務内容などを紹介した。

同大学大学院の松原弘和さん(24)は「まだまだ知らないことが多く水業界を見直す機会になった」、群馬高専の大熊里奈さん(20)は「机上で勉強したことが現場見学や話を聞くことで結び付いた」と話した。

県下水道課の小林修課長補佐は「下水道はなかなか一般に分かりにくい設備。官民が一体となってPRや人材育成に取り組める場になっている」と期待した。

(飯田勉)